

(7) 複数時間の関連を図った道徳授業（小学校）

ねらいに迫るために複数時間で道徳の指導をしたいと思っていますが、どのようなことを心がけて資料を取り扱えばよいですか。

一つの主題を1単位時間で扱うのが基本ですが、重点的な主題を扱う場合や資料から児童の多様な道徳的価値への気づきが生まれる場合など、複数時間での扱いも考えられます。

実践事例の紹介

1 複数の資料をつなげて扱う（主題名：相手に対する思いやり）

- 1時間目：学級の友だちを大切にした登場人物の行為を描いた資料
 - 2時間目：親の子どもを思う心情を描いた資料
- 2つの資料をつなげることで、いろいろな場面での思いやりの心についてとらえさせ、「人間の優しさ」について考えたことを経験を含めてまとめることができた。

2 中心的な資料に補助資料を関連させて扱う（主題名：生命尊重）

- 1時間目：学習プログラム「命を育む手」 **学習プログラムを用いた実践**
 - 2時間目：詩
- 1時間目に、中心的な資料を用いて、命のかけがえのなさや動植物の大切さについて考えたことを発表した。2時間目に、詩に描かれている筆者の願いについて話し合い、これまでの自然愛護活動や訪問活動等を振り返り、「命とは、・・・」と題をつけて、自分の考えをまとめることができた。

3 中心的な資料そのものに複数時間をかける

（主題名：大切な友だち…2時間）

1時間目に、資料における各場面の様子と、2人の登場人物の心のつながりについてまとめさせ、2人の行為について考えたいことを発表する時間を確保した。



2時間目に、「なぜ、AはBのために、そこまでがんばることができたのか。」について話し合い、Aは自分以上にBのことを思っていたことに気付かせ、「自分の中にある友だちを思う心」について、振り返ることができた。

複数時間の関連を図った道徳授業

- ◎ 児童の実態や資料の内容などをもとに、複数時間で扱う意図を明確にしましょう。
- ◎ 資料の取扱い方と授業のねらいを確かめるとともに、効果的な指導の在り方について考えましょう。
- ◎ 道徳の時間の年間指導計画に位置付けるなどして、実践していきましょう。

(8) 多様な感じ方や考え方を引き出す話し合い活動の充実（小学校）

児童の多様な感じ方や考え方を生かしながら話し合い活動を進めていくには、どのようなことを心がければよいですか。

話し合いは、児童相互の考えを深める中心的な学習活動です。児童の多様な感じ方や考え方を生かすために、一人の考えをもとにして話し合いを展開することなども有効です。

実践事例の紹介

1 一人の考えをもとに話し合うフリートークを活用する

- 資料の山場で、登場人物の揺れる気持ちに共感させ、価値に対する自分の考えを確かめるために、フリートークという話し合い活動を位置付けた。自由に自分の思いを表現できる場を設け、本音を引き出す手だてとした。
- 様々な発言から「共感」「反論」「質問」などが引き出され、登場人物に対する自分の考えを深めていくことができた。

2 フリートークを位置付ける際のポイント

- 提案者の考えをもとに、自分の考えと比べて発言するというフリートークの目的を事前に確認した。
- 提案者が司会の役割も行い、児童同士が話をつなげていくようにした。
- 教師は、児童の考えを整理することや詳しく聞いたり問い返したりすること、ねらいからそれないことなどに配慮した。



3 フリートークの実際

- 提案者：「私は、登場人物の行動について賛成です。理由は・・・だからです。みなさんはどう思いますか。」
- 子ども1：「私も同じように考えます。理由は・・・だからです。」（共感）
- 子ども2：「でも、実際にそうすることは難しいと思います。」（反論）
- 子ども3：「もしも別の登場人物の立場に立ったらどう思いますか。」（質問）

多様な感じ方や考え方を引き出す話し合い活動の充実

- ◎ 児童が、自分の思いを表現することができる場を位置付けましょう。
- ◎ 児童の発言を予想しながら、教師の働きかけを工夫しましょう。
- ◎ 話し合い活動を通して、自分の考えがどのように深まったかを確認する場を位置付けましょう。

(9) 仲間から学ぶ話し合い活動の充実（小学校）

自分の思いや考えを伝え、仲間から学ぶ話し合い活動を充実させるためには、どのようにすればよいですか。

話し合い活動を充実させるためには、意見の異なる友だちの考えと比較させたり、考えをまとめさせたりして、自分の考えの深まりに気付かせる教師の働きかけが大切になります。

実践事例の紹介

学習プログラム：山根基世「命の河」を用いた実践

1 自分を見つめる時間を確保する

- 中心発問の後に、ワークシートに書く時間を確保した。
一人ひとりが自分を見つめ、考えを整理し、安心して発言ができるようにした。
- ワークシートは、可能な限りシンプルにした。
多すぎる指示や問いは、児童の思考を制限したり、固定化したりするので、「生きているのではなく、生かされているんです。」「伝えたいこと」というキーワードだけを書いたワークシートを準備した。

【児童のワークシート】

「生きているのではなく、生かされているんです。」

- 両親がいてのこの命。
- その親がいなければ、親はいない。
→人は助け合って生きている。
→自分は支えられている。

「伝えたいこと」

- 人はみんな助け合って生きている。
- 周りの動物や植物や人を大切にしてください。

2 小集団での話し合いで考えを練り合う

- 小集団で話し合う場を設定した。
小集団での話し合いで、自分の考えを整理したり、足りない部分を補充したりすることで、自信をもって全体での話し合いに臨めるようにした。
- 小集団は隣や前後の児童でつくるようにした。
話し合いの内容や進み具合によって、変動しながら互いに考えを練り合えるようにグループをつくった。



3 全体での話し合いで考えを深める

- 全体での話し合いでは、児童の発言をかかわり合わせ、つないでいくようにした。
 - ・ 児童の考えの曖昧な点や矛盾を追求する。
 - ・ つぶやきを拾い上げ、全体に広げる。
 - ・ 考えを別の言葉で言い直させる。
 - ・ 同じような考えでも自分の言葉で発言させる。
- 認め合う学級経営を基盤にして、一人ひとりの意見を大切に扱うようにした。

仲間から学ぶ話し合い活動の充実

- ◎ 仲間から学ぶという目的を明確にして、話し合い活動を授業に位置付けましょう。
- ◎ 自分の考えをもとに、書いたり話し合ったりする場を確保しましょう。
- ◎ 話すことや聞くことにかかわる段階的な指導をしましょう。

(10) グループでの意見交流を生かした話し合い活動の充実（中学校）

グループでの意見交流を生かしながら道徳授業を進めたいと思いますが、どのようなことを心がければよいですか。

話し合い活動は、道徳の時間においても重要な役割を果たします。グループやペアによる話し合いなども取り入れ、互いの考えやその理由などについて検討することが必要です。

実践事例の紹介

1 グループで相手の行為とその理由について考える

- 主題名：社会の秩序と規律

生徒は「車が来ていなくても、赤信号を遵守する。」という自分とは異なる立場の理由を予想し、グループでまとめた。その後、グループ同士で価値判断したこととその理由について話し合い、互いの考え方について理解を深めた。終末の段階では、他者の立場になって感じたことや考えたことを振り返る時間を確保した。

2 グループで価値判断の揺れを視覚的に確かめる

- 主題名：真の人間愛

「もしも、自分がこの資料のような場面に遭遇したら、どのような行為をするか。」ということについて考え、「〇〇する。」「どちらかという〇〇する。」「どちらかという〇〇しない。」「〇〇しない。」という4つの選択肢から行為を選択した。同じ行為を選んだ友だちとグループをつくり、理由を確かめた後、異なる行為を選んだグループと意見交換した。それぞれの行為を選んだ理由を発表しながら、自分の考えを確かめる機会とした。途中で考えが変われば、グループを移動して話し合いを続けていく。

終末の段階では、話し合った内容や自分の考え方の変容について振り返る時間を確保した。



グループでの意見交流を生かした話し合い活動の充実

- ◎ 自分の考えをはっきりともつことができるように指導を工夫しましょう。
- ◎ 友だちのものの感じ方や考え方を受け止める場を位置付けましょう。
- ◎ 生徒が、自分の考え方の変容について振り返る時間を確保しましょう。

(11) 仲間とのかかわりを深めるワークシートの活用（小学校）

児童同士のかかわりを深めるために、どのような方法がありますか。

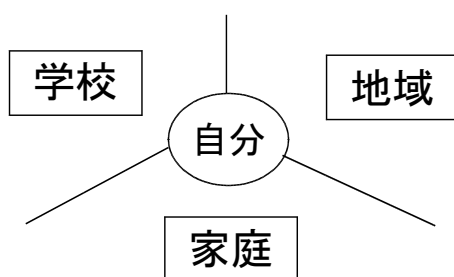
児童が自分の考えをもとに書いたり話したりする機会を充実するとともに、友だちの考えをしっかりと受け止める必要があります。ここでは、仲間とのかかわりを深めるために、ワークシートを活用した取組の例を紹介します。

実践事例の紹介

1 ワークシートを活用して感じたことや考えたことを意見交換する

- 自分の生活を振り返る場面でワークシートを使用した。ワークシートをもとに近くにいる友だちと互いの経験や思ったことについて話し合い、自分のものの感じ方や考え方を広げることができた。友だちの考えから自分を振り返ることもできた。
- ワークシートに加筆したり修正したりすることにより、これまで気付けなかった自分を見つめることができた。

【ワークシートの例】



自分の身の周りで、感謝の気持ちを伝えたい人を見つけよう



2 友だちとの意見交換から納得した考えを出し合う

- 終末の段階で、ワークシートを用いて2～3名のグループで互いの考えを確かめ合った。多くの友だちの考えを知るために、何度か繰り返した。その後、新たに気付いたことを発表する場を設定した。
- 子どもが友だちとのかかわりから見出した考えを教師が価値付け、今後の生活に生かしていくことができるように働きかけた。



仲間とのかかわりを深めるワークシートの活用

- ◎ 児童同士がかかわりを深めるための活動を考え、授業に位置付けましょう。
- ◎ 児童の発達段階に応じて、仲間とかわるための表現方法を工夫しましょう。
- ◎ 日頃から、何でも言い合え、認め合える学級の雰囲気づくりを大切にしましょう。

(12) 自分を見つめ直すための書く活動の充実（小学校）

終末の段階で書く活動が位置付けられることが多いですが、書く活動での指導においてどのようなことを心がければよいですか。

児童は書きながら考えており、書くことによって自分の考えが整理されたり、これまでの自分自身のことを思い出したりします。道徳授業の終末の段階での書く活動として、キーワードを示すなどの工夫も考えられます。

実践事例の紹介

1 事例：津田恒美「もう一度投げたかった」 **学習プログラムを用いた実践**

津田投手の4つのエピソードを通して自らの生き方や命の尊さについて考えさせることをねらいとした。終末の段階で、「弱気」というキーワードを含めた題をつけて書くことで、児童が津田投手の生き方に迫ることができるように工夫した。

【児童のワークシート】 「病気と弱気とたたかった津田投手」

初めは弱気が大事なときに出ていた津田投手でしたが、病気にかかり一度は弱気になっていたが、決意してまたたたかい、最後まであきらめなかった津田投手に感動しました。ぼくは、この話を聞いて苦しいときや緊張したときにも、弱気にならず、最後までたたかいたいです。これからに生かしたいです。

2 事例：西岡常一「千年先を考える」（木の文化を守る）

宮大工の西岡常一の生き方を考えることを通して、日本の伝統文化に目を向け、そのよさやすばらしさに気付くことをねらいとした。授業で学んだことを書く際に、西岡さんの人物像だけの内容にとどまることがないように、「木の文化」というキーワードを含めた題をつけて書くことで、日本の「木の文化」に着目させるように工夫した。

【児童のワークシート】 「木の文化を守る宮大工」

私は、木の文化を守り続ける宮大工という仕事がすごく大切だと思います。なんとしても木だけでつくり、鉄は使いたくないというその気持ちがすごいと思いました。文化を守っている人はすごいです。

自分を見つめ直すための書く活動の充実

- ◎ 終末の段階では、新たな気付きや考えの深まり、自分自身を見つめ直したことなど、道徳授業の特質を生かして書く活動を位置付けましょう。
- ◎ 自分と異なる考えに接して考え直したことなども含めて書き残すようにしましょう。
- ◎ 児童が自分の成長をとらえるために、これまで書いたものなどを読み直す場なども工夫して位置付けましょう。

(13) 子どもの意識のつながりを大切にした指導の工夫（小学校）

児童が道徳的価値を自覚し、授業後も意識をつなげていくことができるようにするには、どのような工夫をすればよいですか。

教師の一方的な押し付けや単なる生活経験の話し合いなどに終始することがないように、児童の意識の流れを大切にした授業を展開することが大切です。

実践事例の紹介

学習プログラム：山根基世「命の河」を用いた実践

1 主題を象徴する事柄や子どもの矛盾に迫る問いを重ねる

- ① 授業の始まりでは、『命』とは何か。』という主題を象徴する事柄を問い、児童の意識を方向付けた。
- ② 「『生きているのではなく、生かされている。』とはどういうことなのか。」という中心発問をし、児童の曖昧な考えや矛盾を追求させた。生きることに感謝し、自他の生命を大切にしようとする心情の高まりをねらった。
- ③ 「自分たちに伝えたいことは何か。」という自己の生き方とかかわらせる発問をした。

2 同じ発問をすることにより変容の自覚を生み出す

- 授業の始まりと同じ発問を授業の終盤でもした。『命』とは何か。』と再度問い、授業の終わりで価値の深まりに気付かせることをねらった。
- 児童が価値の深まりや変容を自覚することができるようにした。
 - ・ 生きることへの感謝と命を尊重する責任
 - ・ 命のつながりに対する感動

3 終末で余韻を残し、意識をつなげる

- 主題に関連する歌を歌って授業を締めくくった。
- 帰宅後に、「自分を見つめてシート」に記入させた。その後、教師が紹介し、意識がつながるように働きかけた。
- 朝の会や帰りの会を活用して、深まった価値や児童の変容がその後の生活につながっていくように働きかけた。

自分を見つめて
6年 組 番 氏 名 ()

今回の授業で感じたことがあります。一つは、まわりの人の支えがあって今の私がいること。そして、もう一つは命は生かされている大切なもの。私は、その二つを感じました。一つ目の方で、今の私がいるのは、両親に感謝しているということです。今の私がいるのは、両親がいたからで、今、感謝している両親がいるのは、両親の両親が、たかりになる。私は、あと一つは、両親に感謝しています。そして、二つ目の方で、この道徳の授業をやると、命の大切さが分かる。両親、友達、生活に役立つものを、作ってくれる人たちに私は生かされている。そして、命は両親がくれた一番大切なもの。命をくれた両親に感謝。私を育てくれる友達に感謝。私を生かしてくれる人たちに感謝。まわりの人たちのどれだけの支えがまわりにおいて、そして私の中にどれだけの大切な命があるか、それを今回の授業で感じました。道徳は、私に何が感じさせてくれる授業です。



子どもの意識のつながりを大切にした指導の工夫

- ◎ 道徳的価値にかかわる児童の体験をもとにして、授業の流れを考えましょう。
- ◎ 児童の発言や記述から児童の変容をしっかりとらえましょう。
- ◎ 道徳授業で学んだことがその後の生活につながるように働きかけを工夫しましょう。